

(2) かかり木の処理

途中で他の木にかかることを「かかり木」といいます。広葉樹の間伐の場合「かかり木」は頻繁におきます。伐採木の根元が深く土中に刺さってしまう場合も多く、この時は少人数では困難ですが、数人でロープを用いて根元をもち上げて移動させてゆくと木は倒れます。

「かかり木」のままで幹を伐る場合、およそ2m位の場所から伐ってゆきます。切断にあたってチェーンソーで下から上に向けて伐ってゆきます。



腰の高さで伐採、再度下の位置で伐り直する

(3) 枝の処理

一般的には分かれた部分で切るのが普通です。また枝を細かく伐ると「かさ」が増えます。まとめて林外に運び出す場合には、なるべく伐り刻まないか、ロープで束ねて運ぶようにします。



ナツツタがはい上がるコナラ林

(4) 再生を考えた適切な伐り位置

伐採は無理に低い位置にしゃがんでやる必要はありません。腰の高さで伐るのがもっとも安全です。伐採した後、低い場所で伐り直しをすれば問題はありません。伐採後の萌芽が容易になるように配慮します。低い場所での萌芽が更新には有利です。

(5) 作業の手順

作業にあたっては林の縁から伐るのが効果的です。林の下から上へ、右ら左へ伐るとチェーンソーの特性を生かした伐り方となります。伐採は斜面に対し横に倒すか、谷側に落とすと無理がありません。伐り口を下に向けると木がすべりやすくなります。

(6) ツルの除去

ツルが樹冠部を覆っている場合、間伐は困難で、初年度はツルを伐り、ツルが腐ったところをみて2～3年後に間伐します。伐る季節は初夏から夏が最適でツルにとってダメージが一番大きい季節です。それ以外の季節でもとくに構いません。

ツルの種類と特性

ツルを伐って2～3年放置する

ジャケツイバラ

絡みついて伐採時にじゃまな種

フジ、クズ、アケビ、
ミツバアケビ、コボタンヅル
(ヤマブドウ)

それほどじゃまにならない種

キツタ、テイカカズラ、
ツルグミ、エビヅル